

平成25年第2回地域包括センター運営協議会要旨

- 1 日 時 平成26年1月21日（火）18時～20時
- 2 場 所 熊本市役所10階会議室
- 3 出席委員 上野 博久、清田 武俊、古川 猛士、山田 正、
上村 妙子、林 千佳子、和田 要、永田 直住（敬称略）

4 議 題

○議事

（1）地域包括センターの評価について

5 議事録など（要旨）

◆議事（1）地域包括センターの評価について

○事務局

- ・自己評価・行政評価結果説明
- ・外部評価結果説明
- ・評価総論
- ・各地域包括支援センターへのフィードバック方法について

○上野委員

資料1の最後、介護予防委託簡素化し、来年度から開始する理解でよいか。
受託しながらない居宅があると聞いた。煩雑であることも聞いている。
来年からぜひやって欲しい。包括がパンクする。

○清田委員

将来的には支援1・2の人も介護給付から外れていくかもしれない。ひとつひとつの業務が大変になっているので、簡素化できる部分は簡素化してほしい。
包括の実情に合わせたものにしてほしい。

○上村委員

評価票の中で区役所や本庁との連携について、区役所の役割が見えにくい。

○事務局

区役所の平準化図りたい。区役所の役割を示しながら、役割を果たしてもらえるような働きかけを行いたい。身近な住民サービスを提供する区役所。庁内の連携を図りたい。

○永田委員

外部評価のうちの2,000人アンケートの対象者選出、属性、方法についてはどのように

なっているか。

○事務局より

広聴課が主管課。2,000 人委員会におけるアンケートであり、地域包括支援センターだけでなく、市制について問うものである。アンケート方法は郵送にて実施。

○清田委員

「ささえりあ」という通称名についての効果はどうか。

○事務局

2,000 人アンケートでは「ささえりあ」を知っているかというアンケートを実施。平成 22 年度に同様の調査を実施し、その際は 3 割程度の知名度だったが、5 割に伸びており知名度は上がっていると認識している。

○ 和田委員

評価全般において、評価を今後につなげる形でフィードバックしたいという意向での事務局から提案があっているが各委員からの意見はないか。

○ 上野委員

評価に開きがある。自己評価はそれぞれ。中央・東・西は評価が高い。南と北は低め。様々な要因があるかと思うが、区役所との連携も要因かもしれない。

包括になって 2 年目のところもあるし、包括の職員にも経験の差がある。在介以前の時代から地域の方々に信頼されている。長年培われている。評価が悪いといって育てても数年で育つわけではない。悪いと怒ったり、点数でみるのではなく、具体的な育成が必要。

個人の力量もある。自己評価が高いところもあるが、本当にそうかと思うところもある。いろいろなことを加味して育成して欲しい。

○和田委員

自己評価が低いところは、遠慮もある。踏み込んでいけば行くほど、課題が見えてきてできていないと感じている包括もあるだろう。個別的に見る必要があるだろう。行政評価者のコメントとして、もっと具体的に、もう一步踏み込んだ提言を書くとよいのではないか。今後、改善のヒントを提供して欲しい。

自己評価と外部評価のばらつきで気になるところ、資料 1-2 の折れ線グラフで示してある、自己評価と行政評価が逆転しているところ、差があるところなど、行政として整理して、フィードバックの中に入れることで、今後に繋げてほしい。

○ 永田委員

コメントにはヒントがほしい。地域特性を理解するのには時間がかかる。

一部の包括の話だと思うが聞いた話だと、同一法人からの変な圧力もあるのではないかな。市から研修や育成をしても、伝わっていくのか。時間をかけて育成をしていっても、法人内で異動させられたりすると育ちにくいのではないかな。組織内で統一していく必要がある。どう介入していくか、具体的なアドバイスが必要ではないかな。

○ 清田委員

本庁と区役所の役割という話が出たが、区ごとの特色が出てきている。私は西区にいますが「健康さるく熊本西」とか在宅医療を支えるための連携会議等が区役所単位で行われている。

本庁だと担当の所管課が違っているが、区役所だとアットホームな雰囲気もあり、縦割りではなく横断的な関わりが必要だと考える。まちづくりの視点からいけば、介護の問題もある、健康づくりもあると。皆、同じメンバーが出てきている。もっと効率的に、全体的なケアができるのではないかと感じる。本庁は縦割りの部分があると思うが、地域性を考慮し、区役所という小さい単位になったのもっと横断的でよいのではないかな。地域の人の大変さを緩和できるし、顔の見える関係ができやすいのではないかな。

○和田委員

事務局より何かないかな。

○ 事務局

地域の担い手は同じであることの認識は十分持っており、連携できる部分は連携しながら取り組んでいきたい。また評価の返し方については、できていないことをできていないではなく、どこができていくのかを個別にまた区役所と一緒に課題に対する摺り合わせをしていきたい。

○玉春委員

フィードバックの資料、評価の総論の中により方向性が示されている。「地域包括支援センターが自ら活動するものから今後はコーディネーターの役割」

「人材育成についてはコーチング能力を高める」

区の特徴を生かした会議や研修のあり方に生かす。

運営事務のところでも気になっていたが、組織的な活動ができているところ、個別の能力に頼っているところとで差が出ていると思う。

○和田委員

各包括からできている個別の自己評価において、「地域ケア会議」については×とつけている包括も多い。

外部資源・社会資源の掘り起こしから活用、ネットワーク構築に向けての工夫が必要なのだろう。

具体的なプログラムに生かす。

個別自己評価の中で、成年後見制度の市長申し立て事案についての問いがある。進捗を返

してあげたほうがよいのではないか。

○事務局

成年後見制度、市長申し立て事務について流れ等について説明。個別に状況を聞き対応する。

○和田委員

個別事案について、きちんとフィードバックがなされていれば、この自己評価に出てくることはなかったと思われるため、対応をお願いしたい。

○上野委員

包括によって、実習生の受け入れをかなりやっているところがある。業務に差し障りがないようにしてもらいたい。

○

地域のふれあいいきいきサロン活動をやっているが、実習生が最後に体操をしている状況である。

○和田委員

補足で話をするが、社会福祉士養成課程においては地域包括支援センターは実習先となっており、看護学生だと地域看護という科目である。上野委員から出たように、業務に支障ないようにお願いをしている。

○清田委員

地域運営協議会に当初から委員として参加している。限られた時間ではあるが包括の進化を感じる。地域運営協議会には以前メンバーでなかった消防や警察等の参加も見受けられ、さまざまな人たちが意見交換でき、有意義であると感じる。

ささえりあがあるとそこが起点になっていろいろなことができると皆がよかったといっている。最初は介護保険のための地域包括支援センターだったが、根が地域に張ってきているという実感がある。暖かくみていてほしい。業務が多岐でもあるし量も多い。若い人ばかりでなく、ベテランが頑張っている。経験を生かしながら苦勞している。一方で育てるという視点で係わってほしい。

○事務局

評価することによって力が及ばないところにピンポイントで力添えしていきたい。一緒に育っていくために活用したい。

○林委員

ささえりあができてほとんどの民生委員は助かっているし、感謝している。高齢者のことはささえりあに聞くといいと思って安心している。

○和田委員

包括として取り組むべき課題が質・量ともに広がりを見せている。次の制度改正を踏まえると負担が大きくなる。

在宅の介護ニーズのある人は確実に量的に増え、質的にも重度化の傾向がある。
対応するために地域づくりをどうしていくか、地域包括ケアシステムをどう作っていくか。
中核として活動している包括に頭が下がる思いである。
断片的な情報であるが個別にみると差があることももれ聞こえるため、市としてそこを評価し、課題に対応してほしい。

○事務局

地域包括支援センター連絡協議会からの提案である、域包括支援センターのロゴマークを紹介。